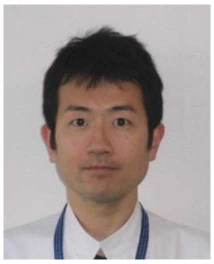
新規エピジェネティック修飾薬を用いた泌尿器癌新規治療法の開発

ライフサイエンス

Keywords エピジェネティクス、LSD1、前立腺癌



安井 孝周 教授

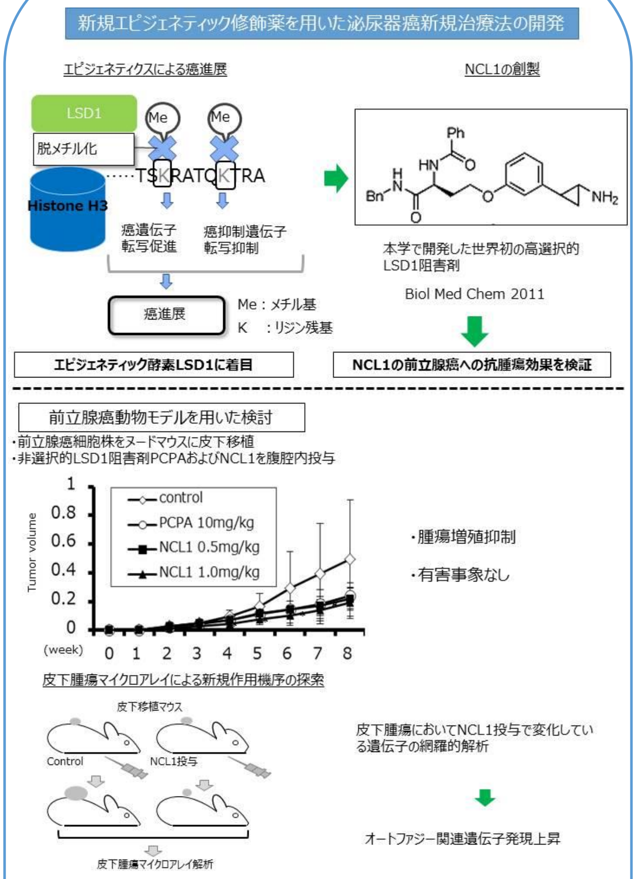
恵谷 俊紀 助教

所 属	医学研究科 腎・泌尿器科学分野
専門分野	腫瘍薬物療法学、腫瘍分野基礎医学
所属学会	日本癌学会、日本癌治療学会、日本泌尿器科学会など
HP	https://ncu-uro.jp/

研究概要

初期治療に抵抗性となった泌尿器癌に対する治療法は限られており、新たな治療法の開発は急務です。近年、エピジェネティック制御による癌進展のメカニズムの解明により、エピジェネティック修飾薬の治療薬としての可能性が注目されています。

本研究においては、癌進展に関わるエピジェネティック酵素であるLSD1に対する、本学で創製した新規阻害剤を用いた、広く泌尿器がんに適応できる新規治療法の開発を目指しています。



- LSD1阻害によるオートファジーの誘導を世界で初めて報告（Oncotarget 2015）
- LSD1阻害剤による去勢抵抗性前立腺癌への効果を報告（J Clin Med 2019）

関連する論文・業績

- 平成28年度　日本アンドロロジー学会　学術奨励賞　基礎部門　受賞
- 平成27年度　名古屋市立大学　瑞川会　岡賞
- 平成26年度　名古屋市立大学大学院医学研究科　優秀論文賞
- 第30回前立腺シンポジウム基礎部門（招請講演）「新規ヒストン脱メチル化酵素阻害剤NCL1の前立腺癌に対する抗腫瘍効果」
- 原著論文　Oncotarget. 2015;20;6(5):2865-78. Etani T et al.
- 原著論文　J Clin Med. 2019;8:442. Etani T et al.

今後の展望

現在、精巣腫瘍に対してもLSD1阻害剤の治療薬としての応用を目指して、治療効果やメカニズムの解明を進めております。

研究者からのメッセージ

エピジェネティック治療は、既存の治療と異なった作用機序による効果が期待できる新しい治療法です。本研究で治療標的としているLSD1はさまざまな癌での発現が指摘されており、治療薬の開発が求められています。

問い合わせ

産学官共創イノベーションセンター
（桜山キャンパス本部棟2階／事務局学術課内）
〒467-8601　名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
（名古屋市営地下鉄桜通線「桜山」駅③出口すぐ）
☎ 052-853-8309　FAX 052-841-0261
✉ ncu-innovation@sec.nagoya-cu.ac.jp

最終更新日　2020/12/1